

「健康しが」共創会議シンポジウム

自然に健康になれるまちづくり

～滋賀県の取組について～

健康しが推進課
課長 野原 成彦



◆ 健康いきいき21とは

誰もが自分らしくいきいきと活躍し、
みんなで作って支え合う「健康しが」の実現

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

① 健康なひとづくり

個人の行動と健康状態の改善

生活習慣の改善
(リスクファクターの低減)

発症予防

重症化予防

健康増進

県民一人ひとりの多様な健康づくりへの取組、
望ましい生活習慣の定着、生活機能の維持・向上

② みんなで創る「健康しが」の取組
(「ひと・社会」の多様なつながりの推進)

① 健康なまちづくり

- ・多様な社会とのつながり・こころの健康が維持・向上する環境づくり
- ・自然に健康になれる環境づくり
- ・正しく知り、行動に繋がるようにICT等を活用した情報発信およびデータの見える化の推進

③ 将来を見据えた健康づくり

胎児期

高齢期

◆ 健康なまちづくりってどんなまち？



野菜たっぷりの
お弁当が
種類豊富で
手軽に買える



歩きやすい
歩道が整備され
歩いて移動
したくなるまち

お店のお弁当が
おいしくて
塩分控えめ



街の中にベンチなど
休憩できる場所が
たくさんあり
無理なく運動できる



ウェアラブル端末で
いつでも体の
状態をチェックでき
健康アドバイスも
受けられる

買い物ついでに
血圧や体重など
気軽に計れる



<滋賀県らしい取組>

ビワイチを楽しんだり、美しい琵琶湖を守るための清掃活動に参加することで、琵琶湖を中心に人と人がつながり、滋賀ならではの暮らしを営むことが「滋賀らしい健康づくり」につながる

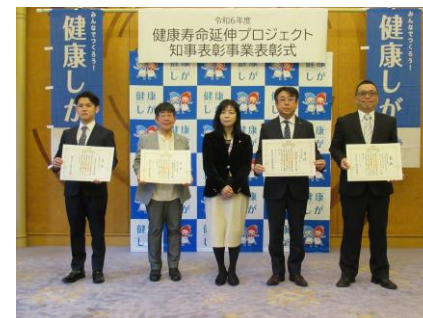
◆ 健康寿命延伸プロジェクト表彰

実施目的

県内において、県民が健康的に歳を重ねていくための取組や、がん患者等の治療と仕事の両立支援に関する取組を積極的に行っている地域団体や企業・事業者の優良な取組事例を発掘し、知事が表彰するとともに、その取組を広く情報発信することにより、健康づくりに対する県民の意識を高めるとともに、個人を取り巻く地域や職域において健康を支える環境づくりを推進し、健康寿命の延伸を図ることを目的に実施する。

令和6年度の受賞団体

地域部門		
喫煙対策	守山市健康推進員連絡協議会たばこ部会	守山市
介護予防	社会福祉法人 真寿会	東近江市
企業・事業者部門		
健康づくり	日東電工株式会社	草津市
治療と仕事の両立支援分野 (50人以上事業所)	正和設計株式会社	大津市
治療と仕事の両立支援分野 (50人未満事業所)	社会福祉法人近江ちいろば会 ぼだいじデイサービスセンター 虹	湖南市



◆ 若い世代をターゲットにした取組

①小売店（セブン-イレブンジャパン）との連携

取組の経緯

県では子どもや若い世代における朝食の欠食率は増加傾向にあり、県民に対し朝食の重要性を周知し行動変容を促すことが必要

→県民が日常的に利用し、馴染みのあるコンビニと連携し、県民に対して朝食摂取の必要性を周知することで、行動変容を促す。

取組の内容



<アプリ>

アプリユーザーのうち、滋賀県民限定で、朝食摂取に関するバナーを表示併せて、大塚製薬とも連携し、カロリーメイトのクーポンを配信

<店舗>

バナーと同じデザインのポップを朝食として手に取りやすい商品

▶普段の生活の中で、朝食摂取を意識するきっかけにつながったと考える

◆ 若い世代をターゲットにした取組

② 大学との連携

取組の経緯

若い女性のやせや子どもの肥満の割合が増加するなどの課題がある。
健康寿命延伸のためには、若い世代から継続した取組が必要。

→ 大学生の視点で自然に健康になれる取組について考え、実際にイベントを開催することで、企画した大学生だけでなく、イベント参加者にも健康について意識してもらおうきっかけを提供する。

取組の内容



<滋賀県立大学でのイベント（学生向け）>
野菜摂取量の測定機器などを用いて、現状を把握することで、食堂での献立の選び方や、レシピの提案を行った。

<立命館大学と連携したイオンモールでのイベント（一般向け）>

店舗内での歩数をチェックすることで、無意識にたくさん歩いていることを知って。いただくとともに、歩行姿勢の測定結果に基づくアドバイスを実施した。



▶ 学生の視点で企画することで、同世代の興味を引くイベントとなり、啓発のメインターゲットに効果的に健康の意識付けをすることができた。

◆ 「健康しが」 共創会議の取組 (H30年度～)

「健康しが」 共創会議とは

さまざまな団体が出会い、取組やアイデアを持ち寄り、共有し、語り合い、協力関係を築き、県民の健康づくりにつながる活動を創出していくことを目指して活動しているプラットフォームです。

(令和6年12月末現在参画団体数：204団体(県内111 県外93))

「健康しが」 共創会議の活動

- ①「健康しが」共創会議では年3回程度テーマを設け、会議を開催
令和6年度のテーマ
 - ・自治体の健康づくり施策と事業・団体との連携
 - ・誰ひとり取り残さない健康づくり
- ②会議内では団体同士のつながりの創出を目的にグループワーク (GW) を実施
→GWで出たアイデアや参画団体からのご提案をもとにワーキングチーム (WT) を実施
WTを通じて様々な団体が連携し、新しい健康づくりの取組をモデル事業として実現



◆ 今後の健康なまちづくりに向けて

健康なひとづくりを支える健康なまちづくりを進めていくために
健康と直接関係のないような取組の中でも、知らず知らずに健康的な行動を
行っていることに「気づき」、このような機会や気づきを増やして、
日頃の生活の中で「楽しく」「自然に」「多様なつながり」
の中でみんなが笑顔で暮らせることが大切

今後も自然に健康になれるまちづくりを
県民、市町、関係団体、「健康しが」共創会議のたくさんの
参画団体・企業様と共に進めていきたい

